

書評

《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》 人間発達学 第3版

加藤寿宏, 松島佳苗 (編)

B5判・304頁
定価: 4,950 円 (本体 4,500 円 + 税 10%)
医学書院刊, 2025 年



発達的基础と臨床に役立つ実践的知識が 得られる一冊！

[評者] 井上和広 北海道立子ども総合医療・療育センターリハビリテーション課

医学書院から発刊された『人間発達学 第3版』は、理学療法士や作業療法士をめざす学生のみならず現職者にとっても、発達の基礎を学ぶうえで欠かせない一冊です。本書は、従来の発達学の枠を超え、運動機能、認知機能、心理社会的機能の三つの視点から、人間の発達を多角的に解説しています。特に、発達のメカニズムを理解することに重点が置かれており、臨床における応用力を高める内容となっています。

本書の大きな特徴の一つは、発達過程の詳細な記述とその構成のわかりやすさです。例えば、乳児期から学齢期にかけての運動発達に関する章では、つまり立ちから歩行獲得に至るプロセスを段階的に説明しており、発達の流れを縦断的かつ横断的に理解できるよう工夫されています。さらに、発達段階ごとの重要なマイルストーンが明確に示されており、臨床現場での評価や介入に役立つ実践的な知識が得られる点も魅力的です。

また、本書の大きな特長として、130本ほどの動画コンテンツがWeb付録として収載されている点です。発達を学ぶうえで、文字や静止画像だけでは捉えにくい動きの変化を、動画によって直感的に理解できるのは大きな利点です。特に、新生児の原始反射や乳児の姿勢制御の発達など、実際の臨床評価で求められる知識を、具体的な動画を通じて学べる点は、教育的価値が高く、現職者にとっても再確認できる内容となっています。

近年、小児リハビリテーションの対象となる子どもたちが有する疾患は、脳性麻痺のみならず、骨・関節疾患や神経・筋疾患、発達障害や染色体異常、先天異常、呼吸・循環器疾患など多種多様化しています。また、障がいをもつ子どもたちの支援の場も、家庭だけではなく、施設、病院、保育園、幼稚園、発達支援センターや児童デイサービス、学校などの教育機関など多岐にわたり、ライフサイクルに合わせて、かかわる職種も変

化していきます。そのような現状からも、本書を通じて、発達の基礎を多角的、包括的に捉えることが重要であり、子どもへの直接的な支援だけではなく、家族指導や家族支援、多職種連携における情報共有や指導などにも効果的に使用できる内容だと考えています。

『人間発達学 第3版』は、発達の基礎を学ぶすべての人にとって価値のある一冊であり、学生にとってはわかりやすく、臨床家にとっては実践に即した内容が豊富であり、専門職の知識を深めるための優れた参考書となり得ます。動画コンテンツを活用した学習効果の向上や発達のメカニズムへの深い理解、最新の研究成果の反映といった点において、本書がさまざまな形で、小児リハビリテーションの充実、発展、さらには障がいをもつ子どもたちや家族の健康と幸福に影響、貢献していくことを期待しています。